

校舎改築情報第9号（令和8年3月3日）

《コラム 校舎の歴史②》

新校舎の起工が遅れており、お伝えする新しい情報はありません。そこで今回は、校舎周辺の「いまとむかし」について少し書いたみたいと思います。

仮設校舎の東門を出て寄宿舎に向かうなだらかな坂をのぼり、その途中でうしろを振り返ると、この坂道の延長線上は、学校の敷地を越え、さらに西方向に一直線上に道路が延びている様子が見えます。以前から学校周辺を撮影した昔の航空写真を見て、不思議だなと思っていました。

【写真1及び3】

そこで、昔の校舎の様子を知っている理療科のS先生にお話を伺いました。昨年解体した旧校舎のさらに前の時代に建っていた校舎は、東西に延びる3棟に分かれていて、そのうちの中央の棟と校庭に面する南の棟との間の通路が、先ほど触れた坂道が西方向に向かう道路と繋がっていたそうです。昭和40年代、八盲の小学生だったS先生の記憶では、敷地内を東西に抜けるこの道を一般の自転車やオートバイが時折通ったりしていたとお話されていました。今では考えられないようなのどかな時代でした。現在の八盲の校地は立川吉五郎氏と関山専吉氏がそれぞれ所有していた土地を寄贈されてできたものですが、二つの所有地がどのような区画で統合されたのか、敷地内を東西に通る抜けることができた道が元々は公道だったのかどうか、史料からは今回確認することができませんでした。【写真2】

のどかな「昔」といえば、平成の初め頃まで学校周辺には、寿司屋、蕎麦屋、中華料理店、和食店など、多くの飲食店がありました。西門を出た交差点の一角（現在は白い壁のアパートが建っている場所）にはお菓子屋さんがあり、その店ではお菓子の他にパンやラーメンなども販売されていたため、昼時になると近くの二商（現在の八王子拓真高等学校）の学生で賑わっていたそうです。お話を伺ったS先生も子供の頃にその店でラーメンを食べた記憶があるそうです。

新校舎が完成すると冒頭の様子はすっかり変わります。今しか見えない風景を惜しみつつ、新校舎が街の中にどのように馴染んでいくのかを想像すると、今からとても楽しみです。新校舎の模型や完成予想図が仮設校舎1階玄関に展示していますので、じっくり御覧ください。

【写真1】昭和22年に撮影された航空写真



写真の中央に八王子盲学校の敷地が写っています（この撮影から数年後に、写真2のような校舎が建つことになります）。学校敷地を二分するように東西へ延びる道路が見えます。また、学校敷地北側には台町交差点方面から八王子駅方面へ続く、現在の南大通りが走っています。写真右上には八王子市立第七小学校も確認できます。南側の土手上に点在する白い建物は、旧国鉄の官舎です。戦後間もない時期のため、周囲の民家はまだまばらです。

【写真2】昭和20年代後半から40年代前半まで使用していた校舎】



【写真3】昭和54年に撮影された航空写真



八王子盲学校創立50周年を記念して撮影した写真です。校庭に「祝50年 HM」の文字が見えます（HMは人文字です）。